

失敗を形成する、4つの要因

そもそも、人はいつ失敗するのか？

「安全だと思っていた」「心の片隅に危険の文字が消えた」……。農作業事故はその隙間からやってきます。

慢心

簡単に言ってしまう
えば、なめてかかる
ことです。毎日同じ
作業になる畜産業
では特に起こりや
すく、作業を始める
時やいつもと違う
時に『これは安全
なのかな』と考える
ことが大切になり
ます。

前提の相違

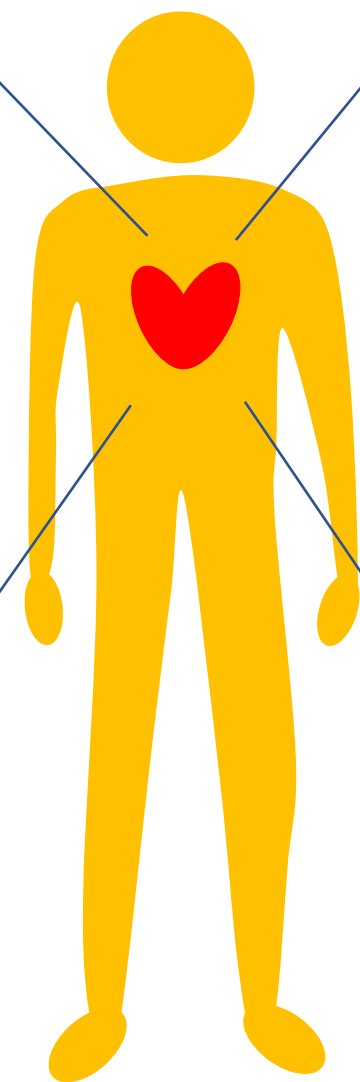
前提が間違えてい
ると、結果も間違え
ます。例えば「この
牛はおとなしいか
ら絶対に蹴らない」
と思い作業したら、
「乳房炎に罹患し
ているのに気付か
ず蹴られて骨折し
た」という事例が考
えられます。

思い込み

人間が犯す失敗の
6~7割は「思い込
み」と言われており、
思考も停止させる
非常に怖い存在で
す。『万が一はあり
得る』と考えましょ
う。責任者は特に必
要となります。

情報の不足

ここでの情報不足
とは、自分たちの
置かれている状況
が正確に把握して
いないことを指しま
す。『事故はどうし
て起こるのか、まず
頭に叩き込む』こと
が大切です。



具体的に、失敗を考える

- 鎌で手を切る -

慢心

これまで鎌で手を
切るなんてへマは
していない

前提の相違

鎌は大して危険な
道具ではない

思い込み

鎌は角度さえ気を
付けて使えば大丈夫

情報の不足

鎌で大ケガする話
は聞いたことがない



「鎌で手を切る」を例にします。4つの要因をイラストのように考えて、見直す機会もないまま身体に染み付くと、最終的には何も考えなくなります。そして鎌を持つときに「手を切る」という発想も無くなり、ある日突然事故が発生します。

ケガに「経験の長短」や「体力や腕力の有無」は関係ありません。それぞれの立場で、労働安全を今一度冷静に見つめなおしましょう。